

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284058

研究課題名(和文)英国モダニズムの情動空間に関する総合的かつ国際的研究

研究課題名(英文)The Interdisciplinary and international research on the affective spaces in British modernism

研究代表者

遠藤 不比人(ENDO, FUHITO)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：30248992

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：英語圏の人文科学研究における「情動理論」を英国モダニズム文学という歴史的な文脈で再考察した。特に同時代の精神分析的言説との関連、およびマルクス主義美学の政治的可能性という点に関して、海外の研究者と継続的に英語を使用した会議を開催し、当該テーマをめぐり国際的な研究成果をあげることができた。それを踏まえて、さらに、近代の「心理学化」に抗う「反＝心理学」と呼ぶべき言説的系譜が新たな視点として浮上し、それについての国際会議をロンドン大学で行った。

研究成果の概要(英文)：This research project has been an attempt to rehistoricize what is generally termed 'affect theory' in the Anglo-American humanities especially within the contexts of British modernist literature. Worthy of particular mention are a series of our international conferences conducted in English regarding the interrelationships between modernist language and contemporary psychoanalytic discourses. It is in this context that the political possibilities of Marxist aesthetics has also been reexamined. Based upon what has been discussed in those meetings, we are beginning to obtain a new perspective from which to consider what can be called 'anti-psychology' as something in excess of the modern 'psychologization,' representative of which are modern literature and psychology. By definition, this point of view allows us to explore the discursive genealogies of anti-psychology/literature. As a matter of fact, we had an international conference on this topic at University College London in 2015.

研究分野：英国モダニズム文学

キーワード：モダニズム 情動 精神分析 近代心理学 マルクス主義

1. 研究開始当初の背景

(1) 特に今世紀に入って以来英語圏の文学あるいは文化研究において注目を集めている「情動理論」が高い多産性を示しながらも、研究の理論的な一貫性、十分な歴史性を示していない。

(2) 上記の問題意識から、「情動理論」が20世紀英国モダニズム文学において持ち得る理論的(特にマルクス主義的)かつ歴史的な意義(主に心理学をめぐる)を総合的に再吟味する必要があった。

2. 研究の目的

(1) 英国モダニズム文学という文脈において昨今注目を集める「情動」がいかなる理論的かつ政治的な意味を含意し得るのか、特にマルクス主義美学をめぐる考察をする。

(2) さらに上記の視点から、「情動」が近代の心理学をめぐる言説史においていかなる歴史的意義を帯びるのかを吟味する。その脈絡で心理を「個人」の「内面」に還元する近代心理学から逸脱する政治性に注目し、その点から精神分析、マルクス主義、モダニズム文学が共有する「情動空間」を前景化する。

(3) 上記2点を踏まえ、20世紀初頭における視覚芸術、殊に「初期映画」が持ち得た政治性を再考する。

3. 研究の方法

(1) この研究は、文学、心理学、マルクス主義美学という具合に狭義の文学研究を越境する「学際性」を帯びるので、特に研究協力者として、他分野の研究者との連携を重視する。

(2) 研究の「国際性」を重視し、国際会議による研究成果発表に努め、同時にロンドン大学を中心に英語圏の研究者との連携を深める。

(3) 研究の理論性と歴史性のバランスに配慮し、実証的な一次資料の分析と読解を重視する。上記の方法と連関し、海外出張が予算執行のかなりの割合を占める。

4. 研究成果

(1) 上記(1)で示した「学際性」および上記(2)における「国際性」という意味から、4年の研究期間において3回の国際会議を開催し、専門を異にする国内外の研究者と共同研究を実践したことにはまず言及したい。具体的にいえば、初年度の2013年度には成蹊大学で、2015年度にはロンドン大学で、最終年度の2016年度は成蹊大学で(この年度は海外からの研究者の招聘に重点を置き、研究代表者の遠藤が総合司会を務めた)、「情動」「精神分析」「反心理学」とい

ったテーマをめぐり国際会議を開催し、文学研究者と心理学の歴史を専門とする研究者が活発にそれぞれの専門を超えた対話をすることができた。

(2) 上記の3回の国際会議を通じて獲得された重要な成果の一つは、英国モダニズム文学の中核を占めるいわゆる「ブルームズベリー・グループ」と同時代の精神分析受容との関連について多くの知見が得られたことである。特に2015年度のロンドン大学での会議では、当該テーマに関する世界的な権威であるJuliet Mitchellが聴衆として参加し、貴重なコメントをし、発表者の一人としてやはりこの分野の権威であるSally Alexanderが口頭発表を行った。こういったロンドン大学における有力教授のみならず、同じくロンドン大学で博士論文を執筆中の若手研究者もこの会議に参加し、当該テーマについての理解を相互に深化させた。この会議では遠藤と秦が研究発表をした。

(3) 2013年度と2016年度の国際会議では、「反心理学」というテーマが論じられて、特にロンドン大学の近代心理学研究者と対話をしたことは有益であった。「心理」を個人の「内面」にのみ還元・矮小化する近代の「心理学化」に批判的な視線を向けることは、近代文学殊にモダニズム文学を再考するうえで最重要な論点であり、その意味で当該テーマは歴史研究と文学研究の接点として生産的なものであった。この2つの会議に関しては、近代心理学研究の世界的権威であるロンドン大学のSonu Shamsadaniが研究協力者として、会議の企画と参加に関して非常なる貢献をした。

(4) 上記(2)と(3)における「精神分析」と「反心理学」という視点は、前者の「転移」という臨床的な概念をマルクス主義美学および政治学に接続することを可能にした。殊にこの分野で最重要な思想家であるにもかかわらず十分な理解と読解をされていないRaymond Williamsをこの文脈で再考できたことを、研究成果として強調しておきたい。殊に「個人」と「社会」の分離という近代的美学=政治学の限界を超えようとする彼の思想の中核概念である「感情構造」を、上記の「反心理学」という観点から理論化できたことは大きな達成である。

(5) 上記の「感情構造」は定義上「個人」の主観を超えた「間主観性」が帯びる美学的かつ政治的強度を意義深く問題化するが、その視点から英国モダニズム期の「初期映画」について再考をできたことは特筆に値する。

(6) このように理論化かつ歴史化された「情動」は、「心」を個人の所有物とする近代文学と心理学に抗いそこから逸脱する「間

主観性」あるいは「脱主観性」と呼ぶべき政治的強度を帯びることになるが、それに付け加えて「情動」にしばしば指摘される「身体性」ゆえに、そこにはモダニズムに独特の「政治的身体」という視点が浮上する。その論点から C. L. R. James らに関して、新たな視点を提供できたことは、大きな当該テーマに関する達成と言ってよい。

(7) 4年間の英国モダニズムにおける「情動」研究の結果の一つとして、研究代表者の遠藤が単著『情動とモダニティ - 英米文学 / 精神分析 / 批評理論』(彩流社、2017年)を出版したことは特筆に値する。これは英文学研究における「情動」研究の本邦最初の単調であり、すでに『週刊読書人』などの書評紙で高い評価を受けている。

(8) 上記のように本研究は、近代における「心理学化」を促進した諸制度(特に心理学と文学)に抗い、そこから逸脱する「過剰」として「情動」を再定義したために、この議論の延長線上に「反心理学」あるいは「反文学」とも呼ぶべき言説的系譜を部分的に可視化しつつある。今後は、その歴史性と政治性を「身体」「触角」「音響」「もの」といった主題に即して研究を継続していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

Fuhito Endo "Affect, Realism, and Utopia: Fredric Jameson's Dialogues with De Man, Karatani, and Williams" *Bulletin of the Faculty of Humanities* (Seikei University) vol. 51 (2016), 査読なし: 115-126.

中井亜佐子 「ヴェールをとる--トルコの「新しい女」のフォトバイオグラフィ--」『大妻女子大学草稿・テキスト研究所年報』第8巻(2015年) 査読なし: 21-37頁。

中井亜佐子 「世界大戦とモダニズムの晩年」『ヴィクトリア町文化研究』第13巻(2015年) 査読なし: 166-173頁。

Asako Nakai "Shakespeare's Sisters in Istanbul: Grace Ellison and the Politics of Feminist Friendship" *Journal Postcolonial Writing* vol. 52 (2015), 査読あり: 22-33.

Asako Nakai "The 'Unveiled Woman of New Turkey: Reading Selma Ekrem's Photobiography", *Seijo CGS Reports* vol. 5 (2015), 査読なし: 23-36.

秦邦生 「前衛芸術と「見えない」戦争--ウィングダム・ルイスの場合」『ヴィクト

リア町文化研究』第13巻(2015年) 査読なし: 158-165頁。

遠藤不比人 「リアリズム/ユートピアの弁証法をめぐる情動論的断章--三浦玲一の追悼のために」『レイモンド・ウィリアムズ研究』第5巻(2014年) 査読なし: 8-25頁。

秦邦生 「女工(ミル・ガール)たちのモダニティ--『ヒンドル・ウェイクス』におけるアダプテーションと労働、余暇、快楽の政治学」『英文学研究』第91巻(2014年) 査読あり: 1-20頁。

Kunio Shin "The Politics of Anti-modernism: Realism, Modernism, and the Problem of the Welfare State in Kingsley Amis's *Lucky Jim*", *Studies in English Literature* vol. 55 (2014), 査読あり: 1-18.

秦邦生 「「ピカデリー」の時空間--英国サイレンと末期映画における異国性、イングリッシュネス、そしてアダプテーションの問題」『映画研究』第8巻(2013年) 査読あり: 4-19頁。

[学会発表](計 19 件)

Fuhito Endo "Landscape and Affect, or the 'Primal Scene' of Romanticism: Roger Fry and Virginia Woolf", Romantic Legacies: The 13th Wenshan International Conference, 18th November, 2016, National Chengchi University, Taipei.

Fuhito Endo "Affective Materiality/Modernity: Roger Fry and Virginia Woolf Reexamined", Virginia Woolf and Her Legacy in the Age of Globalization, 25th August, 2016, Koomin University, Seoul.

Asako Nakai "Revolutionary Cosmopolitan? *Three Guineas* and *The Black Jacobites*", Virginia Woolf and Her Legacy in the Age of Globalization, 26th August 2016, Koomin University, Seoul.

Yoshiki Tajiri "The Status of the Mother in *Life and Times of Michael K*", Reading Coetzee's Women Conference, September 29th 2016, Monash University, Italy.

Fuhito Endo "Marxist Aesthetics Reconsidered: Jameson, Felman, and Williams", Beyond Border Country: New Directions in Raymond Williams Studies, March 11th 2016, Pandy Village Hall, Wales.

Fuhito Endo "In the Dead Core of Positivist Historicism: Negativity in Fredric Jameson and Shoshana Felman" The 7th Annual Liberlit Conference, 22nd February 2016, Tokyo

Woman's Christian University, Tokyo.
Fuhito Endo "Joan Riviere in Masquerade, or Uncanny Chiasmus of Freud/Klein", Continuing

Conversations between Bloomsbury and Psychoanalysis", 12th September, 2015, University College London.

中井亜佐子「革命と日常--C・L・R・ジェイムズにおける「大衆」の概念」日本英文学会関東支部秋季大会、2015年10月31日、慶應義塾大学日吉校舎、神奈川県。

Kunio Shin "Some Versions of Anti-Psychoanalysis: Windham Lewis and I. A. Richards", Continuing Conversations between Bloomsbury and Psychoanalysis", 12th September, 2015, University College London.

Yoshiki Tajiri, "The Quest for 'Other Modes of Being': J.M.Coetzee's Ontological Inquiries", Traverses: J.M.Coetzee, November 11th 2014, The University of South Australia, Adelaide.

Asako Nakai "The Great War and Late-Style Modernism", The 40th Annual Conference of the Joseph Conrad Society (UK), July 3rd 2014, University of Kent at Canterbury, The UK.

Asako Nakai "Culture and Geography: Travelling Raymond Williams", Raymond Williams and Edward Said Workshop, January 11th 2014, Hitotsubashi University, Tokyo.

Fuhito Endo "An Unexpected Dialogue between Freud and R. Williams: Psychoanalytic Affect and Politics of Modernism", Affect, Politics and Psychoanalysis: International Conference, June 21st 2013, Taiwan National University, Taipei.

Fuhito Endo "Organicism Revitalised/ Violated: The Unconscious of D.H. Lawrence and Its Dynamic and Affective Physiology" Comparative Modernisms: Psychology, Literature, and Affect, September 24th 2013, Seikei University, Tokyo.

Fuhito Endo "The Material Event of the Death Drive: De Man and Freud Reconsidered", PAMLA 111th Annual Conference, November 1st 2013, Bahia Resort Hotel, San Diego.

中井亜佐子「世界文学とユートピア—J・M・クッツェーの21世紀」モンロー・ドクトリンの行為遂行的効果と21世紀グローバル・コミュニティの未来、2013年5月6日、成蹊大学、東京都。

Asako Nakai "Community, Society, the

Masses: Conrad at the Dawn of Technological Reproduction", Joseph Conrad Society (UK), July 10th 2013, Roma III University, Italy.

Kunio Shin "The Varieties of Modernist Anti-Psychologism: Eliot, Lewis, and Others", Comparative Modernisms: Psychology, Literature, and Affect, September 24th 2013, Seikei University, Tokyo.

Kunio Shin "Restlessness and the Affectivity of Worldlessness in Virginia Woolf's *the Years*", Modernist Studies Association 15th Annual Conference, August 30th 2013, University of Sussex, The UK.

〔図書〕(計 5 件)

遠藤不比人、彩流社、『情動とモダニテイ--英米文学 / 精神分析 / 批評理論』2017年、273頁。

秦邦生、河野真太郎、麻生えりか、松永典子共編、研究社、『終わらないフェミニズム--「働く」女たちの言葉と欲望』2016年、346頁。

遠藤不比人、大田信良、木下誠、飯田武郎ほか著、国書刊行会、『21世紀のD・H・ロレンス』2015年、74-93頁。

中井亜佐子、越智博美、河野真太郎、中山徹、鶴飼哲ほか著、彩流社『ジェンダーにおける「承認」と「再分配」--格差、文化、イスラーム』2015年、293-314頁。

中井亜佐子、田尻芳樹、高橋和久ほか著、松柏社『一九世紀「英国」小説の展開』2014年、341-364頁、385-406頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤 不比人 (ENDO, Fuhito)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：30248992

(2) 研究分担者

秦邦生 (SHIN, Kunio)

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：00459306

中井亜佐子 (NAKAI, Asako)

一橋大学大学院・言語文化研究科・教授

研究者番号：10246001

田尻芳樹 (TAJIRI, Yoshiki)

東京大学大学院・総合文化研究科・教授

研究者番号：20251746

(3) 研究協力者

ソヌ・シャムダサニ (SHAMUDASANI, Sonu)

University College London